

学推だより vol.2

KOKURA
Elementary School
April 14th / TUE / 2015
発行：学推担当

古蔵っ子一人一人のよさを伸ばしていくために。

一人一人の特性を見つめていく中で。

最近読み終えた本に『IB教育がやってくる！』があります。この本は、文科省が推奨している「国際バカロレア教育」を日本ではどのように導入できるかについて書かれています。その中に、次の一節がありました。新年度、新しい子どもたちを迎えた私たちに示唆を与えてくれるのではないかと思いますので、ご紹介させていただきます。

ある先生が言った言葉です。

学校というものは、玉石混合です。まさにいろいろな子どもがいます。石のような普通の子もいれば、中には玉のような光を放っている子もいます。その時に日本の教育は、石ばかりを磨いて綺麗にしようとしてきました。玉を磨こうとせず、石ばかりを磨いてきました。でも実は、一つの玉をさらに磨くことで、周りの石も輝きだすものなんです。

この言葉は非常に印象的な言葉として私の心に残っています。これは一人の子どもについてもまったく同じことが言えます。一人の子どもの中には、玉の部分があれば石の部分もあります。つまり良いところもあれば、そうでないところもある、得意なこともあれば苦手なこともあります。得意なことを伸ばそうとするのではなく、苦手なことをなくすことばかりを考えています。それが日本の教育なのです。誤解を恐れずに言うなら、不得意なことなど多少目をつむってもいいと思います。それよりも得意なことを伸ばしてやることで、不思議なことです。自然と不得意なことでもできるようになります。反対に不得意なことばかりをなくそうとすれば、得意なことが伸びなくなってしまう。自分の得意分野を伸ばし、自信をつけさせることが結局は生きる力になっていくのです。

これを読んで、古蔵っ子一人一人に **「その子なりの素敵な輝きがある」** ということを私は改めて確認することができました。

漢字の書き取りが得意な子、早く正確に計算ができる子、粘り強く実験や観察に取り組める子、情報をたくさん集めて何でも追究していく子、歌うことが大好きな子、絵をかくことが大好きな子、体を動かすことが大好きな子、誰にでも優しくできる子など、いろいろな力をもった子が古蔵小学校にはたくさんいます。

得手不得手は誰にでもあります。一人一人の子どもの特性をよく見つめながら、**各教科及び領域の日々の授業を通して、その子のもつ玉をいかに見つけてあげるか。そして、それをいかにクラスのみんなで共有していくか。** このことも、4月の学級づくり・授業づくりで大切にしていかなければいけない視点だと再認識しました。